

種ごとの国産有機飼料の試験研究を本格的に開始する。放牧豚、ノンホモ牛乳など必要なテーマ商品に対し、その食味栄養分析を行ない、客観的な指標を提供する。

- ④補助支援等：引き続き海外の有機畜産動向を学ぶ会員に対して、その支援を行ない、高価格のテーマ商品を畜産部会のフラッグシップとして位置付け、その情報を広く消費者に訴求する活動を支援する。

### [3] 食品部会

- ①部会運営：品質や生産性に関する技術向上やトレーサビリティを追求し、製造の管理手法をこれまで通り学び、磨くことを前提として基本的な活動を進めると同時に、らでいっしゅぼーやの財産であるテーマ商品（産地）の訴求力を今以上に磨いていく。さらには商品部とのより緊密な連携のなかで、一歩進んで、地域産品なども視野にした次世代商品の予備軍を育成する。
- ②集会等：2002年度、らでいっしゅぼーや商品1課の尽力により進められたカテゴリ集会を財産として、必要な個別カテゴリの集会・会議を継続し、同時に地域産品なども視野にした次世代商品の予備軍を育成することを目的として、製造各地域でのカテゴリ横断的な会議を実施する。ここでは商品開発の内見会形式や、らでいっしゅぼーや取引先予備軍としての「未取引先」も広く招いた開発フリートーク的な場を設ける。
- ③研究調査等：養殖研究会、水産原料ネットワーク、漬物ネットワークなど、作り手の主体的な取り組みが、実質的なメリットを生むようバックアップしていく。非食品の取り組みについてはこれまで暖

めてきた試験研究を至急進め、その成果として今後求められる日用品の取り組みの方向性を導き出す。

- ④補助支援等：2002年度下期にスタートした栄養分析助成の取り組みを、微生物検査も加えるなどしてより利用しやすい形にし、利用者を増やしていく。

### [4] 交流部会

- ①部会運営：生産者⇄消費者、生産者⇄らでいっしゅぼーやなどの交流の場づくりを主眼に、交流の場を、地域、消費地の両面で模索し、活動をより実体化する。それぞれの地域での場づくりにおいては、食の文化や伝統、地域性をテーマとして交流を深める。運営の仕組みとして、今後各専門部会の代表者も参画できるようにし、部会横断的な取り組みの実態を構築する。
- ②集会等：消費者との交流（ツアーなど）においては、らでいっしゅ村構想の第一弾として試験的取り組みとして実施された「えりもツアー」を継承し、年度内同様のツアーを最低3つは開催する。らでいっしゅぼーや主催の元気市や収穫祭に積極的に参加し協調すると共に、らでいっしゅぼーや・Radixの会共催の有料イベント、日本版サロネデルグストの2004年度開催（2年に1回）についての模索を開始する。
- ③研究調査等：イタリアスローフード協会との連携を深め、必要な情報を会員に提供すると共に、各専門部会間の連携を視野にして全国に点在するRadix会員それぞれが独自にスローフードコンビビウムを立ち上げる可能性を調査する。
- ④補助支援等：各会員が、各地域で主体的にらでいっしゅ村企画を進める場合の支援を行う。「食を学ぶ」

「スローフードを学ぶ」のふたつのテーマに対して、有志のサークル活動を企画し、これを支援する。

### [5] 事務局活動

- ①企画：第二回総会を視野に、会員制度の見直しを行う。らでいっしゅぼーやとの連携の中で、第二回総会開催ならびに役員改選についての準備会、実行委員会を組織する。Radix会員全員に、入会特典としてらでいっしゅぼーや媒体を配布する。相互扶助としての天災等補助枠を継承する
- ②情報発信：会報の充実を図るとともに上期中にホームページを立ち上げる。消費者への情報発信を検討する。
- ③運営：専門部会、交流部会、農産ブロックなどの運営。総会、役員会運営、入退会管理、会員拡大等。週次、月次、半期、決算期会計管理、OAインフラ整備等。